

1. 考動力及びリーダーシップ育成研修

(1) ラーニング・アシスタント ハイタレント研修

2014年12月6・7日、関西大学を会場として外部より講師を招き、LA（ラーニング・アシスタント）のスキルアップ・レベルアップを目指す研修会を開催しました。

研修のタイトルは『自己の探求』、すなわち“self awareness”ですが、そのねらいは、①自己理解を深めること、②他者の自己理解に協力すること、③チームビルディングの体験をすることにあります。これはグループワークやPBLなどに対する苦手意識を克服するためにも有用な作業です。

初日の研修は、まず自分の学習スタイルを知ることから始まりました。誰にも自分の得意とする学び方がある、誰もが同じ方法を得意とするわけではない、すなわち自己理解、他者理解への第一歩です。この結果をもとに、誰かからの指示にしたがうのではなく、自分達でメンバーとするべき仲間を探しながらグループを編成しました。

続いてメンバーの相互理解を深めるためのワークに取り組みました。ここでは可視的なもの（コンテンツ）ではなく、雰囲気や気持ち、関係性といった不可視的なものにどれだけ光を当てることができるかが求められます。

最後に「コンセンサス」を形成するワークを体験しました。危機的状況を脱出するために携帯すべきアイテムに対して個々に優先順位をつけたあと、グループで話し合い、グループとしての優先順位を決めます。この順位には最適解があるのですが、グループでの話し合いの前と後で最適解との誤差が縮まったことを確認します。以上のワークを通じて参加者はグループワークの意義、コミュニケーションの大切さを体感する一日となりました。

二日目は他者を理解し、容認するためのワークから始まりました。示された8項目の優先順位を個別に決めた結果をみながら、価値観は多様であり、まずはそれを受容することがコミュニケーションをすすめていく上で重要であることを体感しました。続いては「自己」「他者」をそれぞれ「容認する」「容認しない」ケースを想定し、自分が4つの象限のうち、どこに「住んでいる」のかを知ります。これを知ることが現在の住処への安心感を確認したり、「住み替え」をしたりするために必要な作業だからです。併せて対人コミュニケーションについて先入観や誤解があるか否かを確認する作業もおこない、これを意識して取り除くことがコミュニケーションを豊かにするために必要であることを理解しました。

個々のメンバーが有している断片的な情報を組み合わせて、一つのミッションをクリアするためのグループワークも体験しました。お互いの情報の関係を予測し、確認するためには、どの情報も等しく取り扱う（受け容れる）必要があります。その上で全員のコンセンサスを得られる結果にたどり着くというワークは二日間の研修の成果を試すものでした。

今回の研修は新生生の悩みや不安を解消するためのヒントやサジェスチョンをLAが与えられるように、自ら「自己の探求」を体験することを主たる目的としていましたが、これまでクラスやチームの中で自分そのものよりは自分に期待される役割やポジションを全体の中で考えることの多かったLAにとって、実は改めて自己を確認したり、あるいは新たな自己を発見したりすることにつながったと思います。ミッションの遂行は確かに重要な事柄ですが、LAとしてのアイデンティティ、LAとして活動している学生としての自己肯定感をこれからさらに大切にしていきたい、それが研修を企画した報告者の率直な感想です。

以下 研修に参加したLAの感想

12月6日－7日LA研修！

今回のテーマは「自己探求」ということで、今までの研修とは少しだけ違う「グループ」ではなくて「自分」にスポットが当たるような研修だった。

ワークをしていくうちに本当に自分が見えてくるというか、自分と向き合っていくというか…。最初は「自分の思っている自分」と「はじきだされた自分」に差がありすぎて驚いたものの、人からのイメージとか人といううえで形成される自分とか、ひとりでじっとしている自分以外の「自分」が本当に大きな意味を持つんだ

なと思う機会だった。

今までLAをしていて「とにかく今できることを探す」という姿勢だったけど、今回で自分のできること・できないことをふっと肩の力を抜いて見つめて、「自分にできること」をひとつ胸の中に落とし込めた気がする。

「そんなこともあるのだろう。
他人には見えて
自分には見えない幸福の中で
格別驚きもせず
幸福に生きていることが——。」

私がとても好きな詩、「虹の足」の一節。
虹の足の中にいる人たちは、自分がどんなに美しい場所にいるかに実は気が付けないんだ、という話。

研修が終わって、ふとこの詩を思い出した。私たちは普段色々なものを見落としていると思う。
誰かに恵まれていることも、その誰かに自分が含まれていることも。

未熟だと諦めること。自分はダメだと宣言すること。
それはとても簡単で、楽なこと、一番自分に優しい言い訳をつくることになる。
誰かに尊敬されること、名前を呼んでもらえること。
これは本当にうれしいことで、幸せなこと。
たくさんの「誰か」に恵まれている証。

もしかすると自分も、そんな誰かのためになっていたりするのかもしれない。
そう思ってこれからは色々な人の目を借りながら
もう少し自分を等身大に見つめていきたい。

うまくまとまらないけれど、本当にあたたかいものを得た2日間。ありがとうございました。
これからもまだまだ活動がんばろう！
変わらないものを大切に。
そして変わることを恐れずに、ですね。

(2) 交渉学ワークショップの開催：2014年12月12・13日 於 熊本学園大学

2014年12月12日・13日の両日に亘り、熊本学園大学にて関西大学教育推進部の三浦真琴教授・山本敏幸教授・田上正範研究員ならびにLA（ラーニング・アシスタント）の学生が「熊本学園大学リーガルエコノミクス学科秋季講座：交渉学～社会人と学生の交渉型ワークショップ」に参加しました。

このワークショップは、社会人と共に交渉学ならびにクリティカルシンキングの学修・実践を体験することによって「考動力」を形成することを目的とした取り組みです。参加した両大学の学生と社会人（総計約50名）は複数のグループに分かれ、提示された課題に関するダイアログやディスカッションを経た上で意思決定とそのプレゼンテーションをそれぞれのグループにて実施しました。関西大学のLAは、プログラムの進行、ファシリテーションを担当し、あるいはコンテキストの解釈や可視化のモデル・プレゼンテーションを提示し、交渉学ワークショップにおける学生のリーダーとして必要なスキルを学び、あるいは提供するミッションを遂行しました。

このワークショップに参加した社会人からは、「学生さんが真剣に取り組む姿に好感を持ちました」「こんなに意識の高い大学生がいるのに驚きました」「授業の内容を可視化するスキルを身につけたいと感じました」などの好評価（高評価）を頂きました。

交渉学ワークショップは既に関西大学を会場として過去に三度開催していますが、今回はフランチャイズを離

れての初めての経験となりました。アウェイであっても、LAの学生たちは、その持てる力を存分に発揮することができるとい嬉しく、意味のある発見と確認がなされた研修でした。

なお、このワークショップは毎日新聞に掲載されました（以下参照）。

毎日新聞大学支援センター監修

文科省補助制度、教育再生加速プログラム 主体的学び引き出す

2015年02月16日

大学の教育力を伸ばすため、文部科学省の肝煎りで今年度から始まった補助制度「大学教育再生加速プログラム（AP）」。社会人に必要な能力を育成する主体的な学習方法「アクティブ・ラーニング」や学習効果の「見える化」に採択件数の8割超が集まっており、大学改革の一つの方向性を示している。大学の講義を変える新たな学びのスタイルとはどのようなものか――。



寸劇で卒業旅行について相談する学生ら＝関西大提供

◇グループで解決策探る ― 関西大

「親に納得してもらって、みんなで行くにはどうすればいいのか」。昨年12月13日、熊本市にある熊本学園大の教室で、同大と関西大（大阪府吹田市）の学生が壇上で寸劇を披露した。

大学4年生6人が卒業旅行を企画する内容で、行きたい場所や予算、期間、親の反対といった状況を整理して、解決策を探る。関西大4年、山本綾香さん（22）が、父親役の三浦真琴・同大教授（教育開発支援センター）から日程を理由に旅行を反対され「お父さんの分からず屋」と反発する場面では、教室がどっと沸いた。

この日は、学生と社会人合わせて40人以上が混成チームを作り、4時間半かけていくつかのテーマについて解決策を話し合った。寸劇で取り上げた卒業旅行の計画をめぐる話し合いもテーマの一つ。山本さんらLA（学習支援者）を務める関西大生4人と熊本学園大の学生4人が中心となって企画、進行も担当した。

関西大は、課題をグループで解決するPBL（課題解決型学習）や学生参画型の授業を取り入れ、生涯を通じて

創造的に活躍できる人材育成を掲げてAPに採択された。三浦教授が担当で、主体となって活動するのは、LAを務める学生たちだ。

山本さんのように、国際学会を含め他大学での「他流試合」でLAを務める学生は10人に上る。関西大は21日、千里山キャンパスでフォーラム「21世紀を生き抜く考動人を育成するために」を開催。APでの成果などを報告する予定だ。問い合わせは同大教育開発支援センター（06・6368・0230）。

◇英語を使う環境徹底 ― 崇城大

熊本学園大から北西約7キロに位置する崇城大（熊本市）は、工学部など5学部を持つ理系の私立大学で、関西大と同様、APに採択された。関西大などが以前から文科省の同様の大学支援プログラムに採択されている「常連校」であるのに対し、今回初めて採択された数校の一つで、文科省の期待の表れともいえる。



(3) LA合宿の開催：2015年2月9・10日 於 関西大学六甲山荘

2015年2月9日・10日の両日に亘り、本学の六甲山荘にて、2014年度LA合宿を開催しました。LAとしての勤務第一期目の新人から七期目を迎えたベテランまで、総勢24名が参加しました。

この度のメインテーマは「LA流情報整理術」です。LAとして勤務している時には、授業内容や与えられた（もしくは発見・発掘した）課題の他に、教師からの指示・学生の反応・グループワークの進捗状況等々、数多くの情報に遭遇します。臨機応変に対応するためには、そのような情報をパーソナルワークもしくはグループワークのデスク上で、あるいはLA自身の頭の中で、適宜、取捨選択し、整理して受講生や他のLAに提示する必要があります。あるいはまた勤務後には、多種多様の情報を適切に整理することがリフレクションペーパーを作成するための前提として求められます。グループワークを効果的に展開するために、そしてリフレクションなどをより深めるために、いかなるシンキングツールを用いて情報を整理するのがよいのか、それを体験するセッションをLA自身が企画しました。

ワークは、まず、シンキングツールを用いずに、与えられた情報に対する意見を個々に考え、それをグループの中で発表するところから始まりました。その次にはシンキングツールを用いて同様のことをするというステージがデザインされています。フィッシュボーンやカードを用いての発想法など、複数のシンキングツールを用いた情報整理体験を通して、LAは個々別々に自らに合うツールを確認あるいは発見しました。

引き続き「リフレクションペーパーのノウハウを知る」をテーマにしたセッションがもうけられました。リフレクションペーパーの作成はLAのミッションとして求められていることのひとつですが、その書き方や活用方法についてのマニュアルが存在しないため（マニュアルを取って作らないようにしているため）、ことに新人LAはしばしば困惑します。このセッションのワークを通して、新人はねらい通り「ノウハウ」をつかんで「困惑」から解放され、二期以上の勤務経験のあるLAは、ノウハウを確認するとともに、新たな価値や意義も発見しました。新たな価値とは、例えばリフレクションペーパーの記載に際して、ストーリー性を重んじたり、オノマトペを適宜用いたりして、他のLAが読みやすい「作品」として編み、大切なことを確実に後輩に伝えていくこと、などです。

LA制度発足の当初、研修は、例えばフィッシュボーンというツールの「紹介」が主でしたが、現在は、これを効果的に活用するためのワークをデザインするところまで、LAの考動力とリーダーシップが成長しています。そのことを十分に確認できる研修でした。

(4) “APAN ConferenceのWORKSHOP”に参加しました

2015年2月24日(火)より3月6日(金)まで福岡国際会議場を会場に開催された“APRICOT-APAN2015”に、関西大学教育推進部山本敏幸教授・同三浦真琴教授ならびにLA（Learning Assistant）の池澤智也氏が参加しました。APRICOT（Asia Pacific Regional Internet Conference on Operational Technologies）はアジア太平洋地域のインターネット運用技術者の知識・技術の向上を目的に開催される国際会議です。同じ地域内の学術ネットワークに関わる研究者の研究成果を共有し、課題を検討するのがAPAN（Asia-Pacific Advanced Network）Conferenceです。上記の三名は開催期間中の3月2日(月)の午前の部においてワークショップ（WS）をおこないました。当WSは「臓器移植」を題材に、当事者の意志決定、関係者間での合意形成や相互の交渉を求められるいくつかのシーンをピックアップし、それぞれについて考えたり、その考えを共有あるいは検討したりする場を持ちました。LAの池澤智也氏はグループワークのファシリテーターとして関与し、参加者からその力量を高く評価されました。参加者の一人、台湾大学医学部の江堤莊（Ti-Chuang Chiang）教授は、今回、扱ったテーマの妥当性と意志決定や交渉に関するワークの意義と価値を絶賛され、台湾大学の医学部において同様のWS開催をチェアマンである山本教授に依頼されました。台湾大学でのWS開催の様様については、APニューズレターにて報告いたします。



02 - Mar - 2015 (Monday)	
	Room 413+414
09:00 - 10:30	Constructive Workshop: Active Learning Enhanced with Educational ICT
10:30 - 11:00	Tea
11:00 - 12:30	Constructive Workshop: Active Learning Enhanced with Educational ICT
12:30 - 14:00	Lunch

From APAN Web	
Constructive Workshop: Active Learning Enhanced with Educational ICT	
Chair	Dr. Tsunehiro
Members	Yoshiteru Imai, Shunichi Ochi, Kazuo Iwamoto, Takanori Imai
Objectives	<p>The main objective is to disseminate the value of understanding and application of the learner centered active learning as the new paradigm of active learning for courses that are currently equipped with the top one hour lecture mode in the future defined by the Institute for the Future.</p> <p>The second objective is for the participants to have the full awareness of active learning in the workshop. Instead of one-directional delivery of knowledge and information from the workshop organizers to the participants, the workshop is designed to be held following the method model developed by the Institute of Education at Brunel, with the full emphasis on the constructive learning, so that the participants can experience, themselves, the active learning enhanced with educational ICT.</p> <p>In the workshop, the value of the workshop approach proposed by Dr. Roger Fisher at the Harvard University is emphasized to have participants fully engage in the active learning process for the advanced education.</p> <p>In the end of the workshop, the participants will have a clear view of what the concept of active learning is and the concrete idea of how to conduct active learning in their classrooms when they go back to their home institutions.</p>
Target Audience	Teaching Staff in Higher Education

From APAN Web	
April	Session 1 Date: 01/04/15 Time: 09:00 - 10:30 Session 2 Date: 01/04/15 Time: 11:00 - 12:30
Staff Arrangement	U Staff
Videoconferencing Facility	Not required
Remarks	Special seating arrangements available with each site using 3 Monitor Consoles and 2 Independent Projectors in the room.

From APAN Web

IT enhanced Thinking Tools:

- Changing Class Dynamics ..
 - Olicia
- From Paper to Digital ...
 - Mindmap (Smartphone APP: SimpleMind-)

What is Olicia(Olic) for?

- Encouraging interactive exchange of ideas and opinions
- On-going discussion throughout the workshop

- Clicker via ICH
 - Screen sharing
 - Discussion
 - Polling
 - IC
 - Group or Staff
 - Feedback

simple mind
mind mapping

【Introduction : Background Info】

ORGAN DONOR CARD
I want to help others in the case of my death.

I request that after my death:

A. My part of my body be used for the treatment of others, or
 B. My whole or part be used for transplantation.

In the event of my death, I possible request:

Full Name: _____
 Telephone: _____
 I request medical notes: _____

image source: www.google.com

Fact Sheet

Stats: Registered Organ Donors

【14年登録者数】
 日本で臓器提供希望者として登録した人は15,000人です。特に心臓提供希望者は、約1,700人です。

【性別と年齢】

性別	Heart	Lungs	Liver	Other	Paired	Small intestine
Male	10,300	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
Female	4,700	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100

image source: www.wowow.co.jp/dramaw/co/transplant/

Fact Sheet

Stats: Organ Transplant

臓器移植件数(2011年)

臓器	心臓	肺	肝臓	腎臓	膵臓	小腸	大腸	胃	脾臓	膵臓	胆嚢	膵臓								
Heart	10,300																			
Lungs		1,100																		
Liver			1,100																	
Paired Kidney				10,300																
Small Intestine					1,100															
Total	10,300	1,100	1,100	10,300	1,100															

image source: www.wowow.co.jp/dramaw/co/transplant/

【Material】

FROM: WOWOW
「連続ドラマW CO移植コーディネーター」
Drama: Organ Transplantation Coordinator
 2011年 / 発売元: ポニーキャニオン
 Pony Canyon 2011

2010年 改正臓器移植法施行

Vol.3. 臓器移植コーディネーター
 + 臓器移植

image source: www.wowow.co.jp/dramaw/co/transplant/

【Story 1】 What would you do? あなたなら、どうしますか

- ✓ Daily Routine to Hospital, Dialysis ... Traffic Accident
✓ 通院と交通事故
- ✓ Confession by the wife
✓ 妻の告白
- ✓ Discoverance and then Family Decision
✓ 家族の隠匿と判断
- ✓ Looking over the transplant procedure
✓ 移植の見直し
- ✓ A patient waits for transplant
✓ 移植を待つ人

【Discussion】

If you were the wife of the donor/husband, will you receive the organ from your husband?
In order to do so, will you turn in the marriage certificate?
あなたが妻なら、臓器提供を承諾しますか。それと、(元の妻の)ごうの婚姻届を提出しますか?

If you were the family member of the donor, will you step forward to the donor procedure?
"Organs will be transplanted based on the order of the waiting list."
It is said of the fact that the donor wishes his organs to be transplanted to his wife.
あなたが家族なら、(このまま)臓器提供を勧めますか。
→本人が希望する方への優先が大切で、臓器提供を促すか?

If you were a Coordinator for Organs, will you accept/deny the request from the donor family?
もしもコーディネーター、臓器提供の依頼を受け取りますか?

image source: www.wowow.co.jp/dramaw/oo/transplant/
www.wowow.co.jp/oo/transplant/

【Story 1】 Organ Donors & Patients waiting for Transplant
臓器提供者と移植希望者

Brain Death: no activity in brain due to an accident
脳死: 大脳や小脳から脳幹までで意識がなくなり、呼吸も停止する状態。
Patient: in a vegetative state
植物状態: 意識がなくなり、脳幹から脳幹以降は機能しているが、意識がなくなり、呼吸も停止する状態。

Organ Donor: 臓器提供者
Patient waiting for transplant: 移植を待つ人

Discussion Topics:
If you were the wife of the donor/husband, will you receive the organ from your husband?
あなたが妻なら、臓器提供を承諾しますか。それと、(元の妻の)ごうの婚姻届を提出しますか?
If you were the family member of the donor, will you step forward to the donor procedure?
あなたが家族なら、(このまま)臓器提供を勧めますか。
If you were a Coordinator for Organs, will you accept/deny the request from the donor family?
もしもコーディネーター、臓器提供の依頼を受け取りますか?

Discussion Topics : Summarized

◆Q: Do you agree to be an organ donor?
あなたは、意思表明カードにサインをしますか?

After Viewing the Scene ...

Discussion Topics:

1. Will you turn in the marriage certificate?
臓器提供を承諾しますか?
2. Will you receive transplant?
臓器提供を受け取りますか?
3. If you were a coordinator, will you comply with the list? Or, overlook the fact of the marriage certificate?
もしもコーディネーター、臓器提供の依頼を受け取りますか?

After Group Discussion Session ...

Q: For you, what is "being healthy"?
「健康」は？ 自分にとって健康は?

Kansai University

Great Job!

Thank you for your active participation!

APAN Workshop

Constructive Workshop: Active Learning
Enhanced with Educational ICT

Toshi Yamamoto, Moderator
Makoto Miura
Masaoei Tagami
Chinki Iwasaki
Maki Okunuki
Tomoya Ikezawa (Student Facilitator)
KANSAI UNIVERSITY

(5) 考動力及びリーダーシップ育成研修「自己の探求Ⅱ」

2015年3月9・10日の2日間、関西大学を会場として外部より講師を招き、LA（ラーニング・アシスタント）を対象とした研修「自己の探求Ⅱ」を実施しました。

このプログラムは、2日間のグループ活動を通し、自己理解を深めることを目的として行われました。ここでいう「自己理解を深める」とは、たとえば、「他者から見た自分」や「自分で気づいていない自分」を認識し、さらに広げていく作業を指します。これにより、自分の感情・考えがどのように行動・発言・態度などに表れ、また、周囲にどのような影響を与えているのかを理解していくことをねらいとしたものです。

この周囲に与える影響力（対人影響力であり、自分の持ち味でもある）を理解することは、LAとしてチーム

で受講生支援を行うだけでなく、学生生活や社会人としての生活にも有用となるものでした。具体的なプログラムは、以下の通りです。

【主なプログラム】

- ① オリエンテーション
- ② 個人ワーク・グループワーク「あなたの学習スタイル」
- ③ グループワーク「記者会見」
- ④ グループワーク「的当て」
- ⑤ 個人ワーク・グループワーク「コミュニケーションの深さをたずねて」
- ⑥ 個人ワーク・シェアリング「私自身について気づいたこと・確認したこと」
- ⑦ グループワーク「積極的傾聴について」
- ⑧ グループワーク「出会いのこころみ」
- ⑨ 個人ワーク・グループワーク「イメージ交換」
- ⑩ 個人ワーク「私を活かすアクションプランの作成」
- ⑪ グループワーク「アクションプランのシェアリング」

(6) 氷上西高校での交渉学ワークショップ開催

関西大学佐治スタジオ、出町慎室長の取り計らいで、3月9日に関大生と氷上西高校生が集まり、交渉学のワークショップをおこないました。氷上西高校からは全生徒の1割の生徒が参加しました。ワークショップの主旨は、相手を思いやるコミュニケーションを通して、当事者が信頼関係をどのように築くか、また、一旦築き上げた信頼関係をその後話し合いを通しての合意形成でどう維持していくかということをアクティブラーニングで実践体験するというものでした。

今回は、昨年7月に行ったワークショップに続き、2回目となりましたが、若い世代の恋愛をテーマに、つきあい始めてから筋ジストロフィー症と診断された主人公とその彼女との関係と人生を描いた、『僕のいた時間』というドラマのストーリーを教材に使用して、身近な人たちとの人間関係について深く考えて、ほかの参加者と自分の考えを共感し、話し合いから自分が主人公だったら、または、主人公の彼女だったら、どういう人生の選択をするのかについてロールプレイによるシミュレーションで臨場感ある学習を体験してもらいました。

これからも、本大学にゆかりのある丹波篠山の氷上西高校の生徒たちと、本学の交渉学を学ぶ学生たちがいっしょに楽しく学ぶ機会を増やしていきたいと思えます。

以下の写真はワークショップの様子です。





(7) ラーニング・アシスタント対象研修

平成27年3月17日(火)の13時～16時に、関西大学千里山キャンパス第2学舎C301教室にて、新規LA及び前学期から継続して勤務するLAを対象とした研修を行いました。はじめに、教育推進部教員及び教育開発支援センター事務局からLA制度の概要や勤務にあたっての心構えなどについて説明があった後、LA自身が企画を立てたプログラムを行いました。詳細については、以下の通りです。

1. 学生企画者

木村瑠花（社会学部4回生）・山本綾香（文学部4回生）

2. 内容

○テーマ

- (1) 「スケッチトーキング」
- (2) 「自己をみつめる」

○実施目的

- ①自分がLAの活動を通じて学んだ、あるいは気づかされたスキルについてふりかえり、他のLAと共有する。
- ②自分の意見や考えを言語化し、他者と共有する。
- ③研修の企画・運営を後輩たちと学ぶ。

(2) 採択記念シンポジウム(第12回 FDフォーラム)・交渉学ワークショップの開催 2015年2月21日

2015年2月21日、標記のフォーラムを開催しました。午前の部では「大学教育再生加速プログラム採択記念シンポジウム」、午後の部では「交渉学ワークショップ」を執り行いました。

午前のシンポジウムにおいては『21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>を育成するために～未来を切り開く交渉学～』というテーマのもとに、交渉学分野の第一人者である隅田浩司氏(東京富士大学経営学部経営学科教授)より「交渉学への誘いー交渉学の展開とグローバル人材育成における交渉学教育」についてご講演をいただきました。続いて、同じく第一人者である一色正彦氏(金沢工業大学大学院知的創造システム専攻 客員教授)より「交渉学教育の実践例ー日本向け教育プログラム開発と大学・企業の実践例」というタイトルでのご講演をいただきました。

午後の『交渉学ワークショップ: 社会人と学生の交流ワーク』では、学生と社会人の混成グループを編成し、全員が参加するロールシミュレーション形式で模擬交渉を体験しました。参加者は学生、社会人の別を問わず、全員が二つのケースにおいて、交渉の妙と奥深さ、そして難しさを楽しみながら体感しました。

なお、午前の部の参加者は109名、うち社会人55名、学生19名(本学学生12名、他大学学生7名)、社会人TA18名、本学教職員17名でした。午後の部の参加者は115名、うち社会人42名、学生38名(本学学生24名、他大学学生14名)、社会人TA18名、本学教職員17名でした。APに採択されてから初めてのワークショップでしたが、採択前に勝るとも劣らない活況を帯びた開催となりました。次回は5月に開催する予定です。

文部科学省
大学教育再生加速プログラム
(平成26年度採択事業)

主催: 関西大学 教育開発支援センター
協賛: 関西地区FD連絡協議会
後援: 全国私立大学FD連携フォーラム

130
KANSAI
UNIVERSITY
1947年創立

関西大学 第12回 FDフォーラム/大学教育再生加速プログラム採択記念シンポジウム

21世紀を生き抜く考動人 <Lifelong Active Learner>を育成するために ~未来を切り開く交渉学~

2015年
2/21 Sat
10:00-12:30

関西大学 千里山キャンパス
第2学舎 2号館 C303教室
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
阪急電鉄「関大前」駅 下車徒歩8分

■ 講師

講演①
隅田 浩司 氏
東京富士大学 経営学部経営学科 教授
金沢工業大学 大学院知的創造システム専攻 客員教授
慶應義塾大学 クロージャ(Health&ウェルネス)研究所 客員研究員

交渉学への誘い
交渉学の展開とグローバル人材育成における交渉学教育

1. 交渉学の始まりと展開(Harvard, PON)
2. ロボット・AI時代の交渉
3. 交渉学の基本コンセプトと国際社会(ビジネス、外交)への応用

講演②
一色 正彦 氏
金沢工業大学 大学院知的創造システム専攻 客員教授
慶應義塾大学 大学院経営管理研究科 非常勤講師、グローバル・ビジネスセンター(研究開発)客員研究員
東京大学 大学院工学系研究科 非常勤講師

交渉学教育の実践例
ー日本人向け教育プログラム開発と大学・企業の実践例
1. 日本人向け教育プログラム開発(東京大学、慶應義塾大学)
2. 交渉学教育の実践(日本・海外の大学事例)
3. 企業の人材育成への応用(日本・海外の企業事例)

■ お申し込み方法
2月14日(土)までに、取組Webサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/ap/>
「お申し込み」申請アンケートからお申し込みください。当日受付も可能です。

■ 参加費
無料
同日13:30~18:00はC302教室にて交渉学ワークショップを開催

■ お問い合わせ
関西大学 教育開発支援センター 事務局
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL:06-6368-1513 E-mail: ap-info@ml.kandai.jp

文部科学省
大学教育再生加速プログラム
(平成26年度採択事業)

130
KANSAI
UNIVERSITY
1947年創立

Acceleration Program for University Education Rebuilding : AP

交渉学ワークショップ

ー社会人と学生の交流ワークー

■ 講師

一色 正彦 氏(金沢工業大学大学院 客員教授 他)
隅田 浩司 氏(東京富士大学経営学部 教授 他)

■ 社会人TA (ティーチングアシスタント) リーダー
松本 俊明 氏(アーカス総合法律事務所、弁護士、関西大学OB)

■ 社会人TA
表 敦史 氏(サソニックソリューションテクノロジ株式会社、関西大学OB)、**塩川 信明 氏**(ニッパ株式会社、関西大学非常勤講師)、**白藤 剛 氏**(特許事務所、弁護士)、**田上 正嗣 氏**(合同会社IT教育研究所、関西大学非常勤講師・研究員)、**竹本 和広 氏**(イッパークラス、関西大学研究員)、**田邊 豊 氏**(豊島法律事務所、弁護士)、**山本 健 氏**(サソニック株式会社、関西大学OB)、**山本 建 氏**(毎日新聞グループホールディングス)、**吉岡 聖紀 氏**(赤岡特許事務所、弁護士)、住宅系、化学系/メディア系の企業所属者 ほか ※50音順、敬称略

2015年
2月21日 土
13:30~18:00

10:00~12:30はC303教室にてシンポジウムを開催
関西大学 千里山キャンパス
第2学舎 2号館 C302教室
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
阪急電鉄「関大前」駅 下車徒歩8分

■ スケジュール

13:30 開会・講師紹介・趣旨説明
総会司会: 山本 敏幸 教授(関西大学 教育推進副部長)

13:40 アイスブレイク(関西大学ランニング・アシスタント(LA)企画)

14:10 交渉学概要・フレームワークの説明

14:50 休憩

15:00 交渉前の準備(個人/グループワーク)

16:30 模擬交渉(ロールシミュレーション)

17:00 感想戦・フィードバック

18:00 閉会

18:30 情報交換会(会費制、学内レストラン) ※希望者のみ先着50名

■ 参加費
無料(但し、情報交換会を除きます)

■ お申し込み方法
2月14日(土)までに、取組Webサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/ap/>
「お申し込み」申請アンケートからお申し込みください。

■ お問い合わせ
関西大学 教育開発支援センター 事務局
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL:06-6368-1513 E-mail: ap-info@ml.kandai.jp